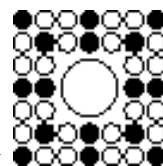


Newsletter of the British Council Japan Association

BCJA Newsletter

No. 16

September 30, 2001



BCJA 英国留学奨学金審査委員会からの報告

BCJA 英国留学奨学金審査委員会

委員長 白鳥 令

昨年11月のBCJA年次総会で平会長の発案で設立されました「BCJA 英国留学奨学金」は、会員の皆様のご助力とご指導で順調に募集をすることが出来、9月17日のBCJA委員会にて2001年度の授与者が決定されました。

一人当たり英国留学のための旅費相当額(15万円)というわずかな金額の奨学金であるにもかかわらず、募集要項を掲載したBCJAのウェブにも多くのアクセスがあり、最終的に応募者は70名に達しました。

しかも、それぞれが高度な学力と知識、意欲的な計画の持ち主でありまして、審査委員会は非常に困難な選択を迫られましたが、公正な審査の結果、British Councilからのご援助もあり、添付別表の通り、2001年度は10名の方々にBCJA奨学金を差し上げることになりました。

なお、選考に当りましては、BCJA 英国留学奨学金設立の趣旨を考慮し、大学間の交換留学制度による学部レベルの英国留学希望者よりも、研究者レベル(大学院以上)の英国留学応募者を優先して採用したことを付記いたします。

同時に、審査委員会は、審査結果と同時に、次の2点を「審査委員会の意見」としてBCJA委員会に具申しいたしました。

1. かつて存在しましたBritish Council Scholarshipが現在廃止され、そのために純粋に学術的な目的で英国に留学する奨学金制度がほとんど存在しないことを残念に思い、何らかのかたちで学術的な英国留学目的の奨学金制度(かつてのBritish Council Scholarshipのような奨学金)の再建を目指して、BCJAが声をあげることを期待する。

2. このような状況を考慮するとBCJA 英国留学奨学金の設立は非常に意義のあることなので、その存続のためにも、もっと組織的に募金活動を行う努力をする必要がある。

なにぶんにもBCJA会員の個人的寄付に財源を依存しているBCJA奨学金であり、応募者に十分な援助をすることが出来ませんが、今後も毎年この奨学金の募集を続けたいと考え

て居りますので、BCJA会員の皆様にもよろしくご支援の程お願い申し上げます。

なお、文末にはありませんが、夏の暑い中何日も審査にご協力いただきました瀬川彰久、西田宏子、橋都浩平の各先生およびBritish Councilの国村三樹さんに、心からお礼を申し上げます。

別表

BCJA 英国留学奨学金2001年度授与者名簿

順位	氏名	所属	留学希望先	分野
1	豊口 真衣子	東京大学	Brighton	建築
2	田中 兼介	慶応義塾大学	LSE	経済開発論
3	桜井 文子	東京大学	Cambridge	歴史
4	細野 剛	立命館大学	Edinburgh	国際政治
5	河辺 耕二	東京大学	Sussex	哲学
6	中野 涼子	神戸大学	Oxford	国際政治
7	WANG Chin-en (王鉄彦)	神戸大学	Essex	国際法
8	南谷 佐智子	神戸大学	Manchester	経営学
9	藤原 真希子	東京藝術大学	Goldsmiths	繊維織物
10	多田 紀子	早稲田大学	Oxford	社会学

BCJA 英国留学奨学金制度の発足と経緯

BCJA Chairman 平 孝臣

昨年の議事総会ならびにNewsletter誌上で報告いたしましたように、British Council Scholarshipによって渡英がはじまって以来約50年が経過したのを契機に、今年度からBCJA自体がスポンサーとなって英国留学のための奨学金制度を発足させました。会員の皆様には多大な御協力をいただき、おかげさまである程度の奨学金を出すだけの資金が集まりまし

た。心より感謝申し上げます。本年4月から Newsletter や Web site 上で希望者を募集しましたところ、web site へは何千という British Council はじまって以来のアクセスを記録しました。最終的には70名もの応募者があり、白鳥 令先生を選考委員長とする選考委員会で厳選に審査した結果10名を選出し、9月17日に行われた委員会にて承認されました。なお British Council 駐日代表の Toney 氏の寛大な御厚意で、British Council から多くの資金を提供していただきました。この場で再度感謝申し上げます。

現在英国では日本をすでに経済的にサポートする必要のない国としてみなしており、かつて私どもの人生を変えてくれた British Council Scholarship のような奨学制度は消滅しています。しかし個々の若い学徒のレベルでは必ずしも経済的に安定しているとはいえ、英国留学の機会は多くの学術分野で困難なものとなっています。今回応募された70名はいずれもが、非常に優秀で目的意識がはっきりとしおり、将来の日本を担っていく若者であることは間違いありません。できれば全員を通じたかったというのが個人的感情ですが、このような若者を少しでもサポートできる機会に恵まれたことを喜びに感じております。

今回の奨学金は額としては非常に小さなものですが、BCJA の活動の大いなる発展の第一歩として大きな足跡ではないかと考えています。今後その大いなる発展として、会員からの寄付だけに頼るのではなく、関係諸団体から継続的な御支援をいただきしっかりと経済的基盤を築くこと、このようにして、かつての British Council Scholars の手によって、British Council Scholarship と同等かそれ以上のものを復活させることを目標のひとつにしたいと考えております。これからも会員の方々の暖かい御支援をよろしく願い申し上げます。(ご意見などございましたら ttaira@nij.twmu.ac.jp へお送り下さい。)

セント・アンドリュースより

中村高遠

月日の経つのは早いもので British Council の grant で初めて英国に来たのが14年前の1987年の9月、共同研究をした教授は停年退職、Brunel大学の化学科は閉鎖になり、一抹の寂しさを感じています。しかし、そのとき Royal Society of Chemistry (RSC)の会員に応募し、Member (CChem)資格が与えられたことが役立っております。日本の学会と違って Member となるためには Fellow の推薦に加えて学歴・研究業績等の厳格な審査があって苦労しましたが、今日まで私と同じ研究分野(電子スピン共鳴)の RSC のグループとの交流が続いているのは、その membership のお陰です。Easter の時期に開催される学会では常連の一人になりましたし、1996年に Cardiff の ENDOR Centre に2ヶ月 (Daiwa Anglo-Japanese Foundation の助成)、今年は7月中旬から St. Andrews に来て High Frequency ESR Facility を利用させて戴けるのもそのためです。

今年は日本が猛暑ですので、20°Cを下回る気温の Scotland

に滞在できるのは何よりの贅沢かもしれません。想像していたより本格的な雨が少ないことも幸運と云えます。St. Andrews には人通りの多い3つ通りがあります。Old Course に近い North Street と入り口に小さなゲートのある South Street、それらに挟まれた Market Street、20分もあれば一週りできるごんまりした町で、私と家内にとってはちょうどよい大きさです。大学から借りた家は、古い建物で外見はお世辞にもきれいと云えませんが、中は清潔で使い勝手がよく、North Street の一角にあって便利です。グリルでソーセージを焦がして火災報知器を鳴らす失態もしましたが、住み心地は悪くありません。映画007で有名な Sean Connery もこの町がお気に入りだそうで、町はずれに最近できた Byre Theatre は彼がスポンサーだそうです。

人なつっこく親切なところも気に入っています。先日の日曜日、Edinburgh から帰る途中、道を間違えてしまいました。ガソリンスタンドで尋ねたところ、店の方が地図を出して調べてくれましたが分からず、困っていると後ろに並んでいる中年の男性が私の肩を叩いて、ごく当たり前のように follow my car と助けてくれるのですから。これは96年に Wales に滞在中の出来事ですが、Heathrow に早朝到着する人を迎えるにいくときに午前2時頃 Newport の辺りで道を間違えて危うく警官に逮捕されそうになったときも同じです。道路標識を確認するため、止まったり、走ったり、roundabout を何周も廻ったりしていると、突然パトカーが私の車をブロックし、護送車が横に止まり、手錠をぶらぶらさせて体のがっしりした警官が私の車に近づいて来ました。そのときも事情を話すと、follow me と云って motorway までパトカーで誘導し、手を振って見送ってくれました。countryside は人情があって居心地満点です。

話は St. Andrews に戻りますが、日が長く、気温も快適とあって golf と Scottish dance を楽しみに来る観光客で賑わっております。もちろん、日本からもたくさん来ています。87年当時は、Uxbridge (London) でバス停に立っていると secondary school の生徒に“foreigner などと珍しがられ、日本人にあまり出会わなかったことを考えれば、英国内の至る所で日本人の人を見かけるのは大きな様変わりです。小さな町のそんな賑わいを横目で見て、アタッシュケースをもって歩いている自分は、この町に似合わない奇妙な日本人に写るかもしれないと思いながら、Old Course に近い物理・天文学科の建物の中で毎日遅く(?)まで仕事をしています。つい先頃まで隣に住んでいた地質学が専門で Highland 地方を度々訪れているスペインからの教授夫妻が羨ましい限りです。

滞在先である物理学科の Riedi 教授のところでは、新しい磁気共鳴装置を開発し(日本では残念ながらこの分野は遅れています)それをハードディスクや新しい磁性材料の特性評価に応用しております。Riedi 教授はゼロ磁場核磁気共鳴(NMR)が専門で、ESR 装置の開発は98年に BC の grant で10日間ほど日本に招聘したことがある Smith 博士の仕事です。その装置は、一般的に使われているものより10 - 30倍の高い周波数で測定することが可能で、いままで未解決の固体材料の評価に威力を発揮しております。特筆すべきことは、英国内の化学者が National Centre として広く利用していることです。きょうも Manchester から研究者が来て測定をして

います。ですから研究は高い評価を受けていて研究費は潤沢のようです。

彼らとの出会いは 95 年の Edinburgh の学会です。高周波 ESR 装置に関する lecture を聞いたとき、数年間解決できなかった課題の糸口を見出したような気がしました。彼らの開発した装置が利用できれば、コンピュータを駆使したシミュレーションをしなくても固体材料中にドーブした低い対称性サイトを占める希土類イオンに関する情報が得られると直感したからです。偶然、大学の同じ hall に泊まっていたことから、Riedi 教授に出会ったときに事情を説明すると、簡単に引き受けてくれました。それまでに数回、同じ学会に出席して顔見知りだったことが幸いしたかもしれません。何しろ、80 名程度の小さな学会で 4 泊 5 日、寝食を共にして議論するものですから。たとえば、Edinburgh の学会で whisky tasting をさぼって Chinese restaurant へ食事に行ったことがすぐ知れてしまうくらいです。

研究の詳細は省きますが、図を見ると理解して戴けると思

います。非常に残光の長い蛍光体の発光機構を調べるため、その中にドーブされたユーロピウム () イオンのスペクトルを測定したものです。内容はともかく、両者が全然違うことは専門外の方にも分かると思います。この違いは、装置の有用性を説明する資料として説得力があるので High Frequency ESR Facility のところにポスターにしてあります。もちろん、Journal of Chemical Society Faraday Transactions 等に関連する研究成果を含めて数報掲載されていますし、今回の滞在では科学研究費の基盤研究に協力してもらっています。

10 月から Prince William がこちらの大学で勉強するので大変なようです。住宅の価格は上がるし、学生数は物理・天文学科ですら希望者が 2 倍になったそうです。bronze の髪の子が急激に増加するとの噂も聞きました。9 月下旬からは別の賑わいがあるかもしれません。見てみたい気もしますが、その頃には日本に戻ります。

(NAKAMURA Takato, 静岡大学工学部、Brunnel University 1987-88)

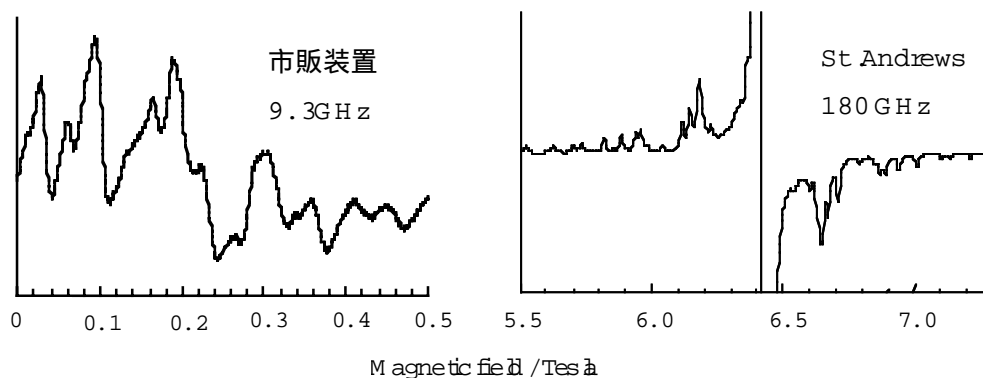


図 市販装置と St Andrews 大学の装置で測定した場合の比較

BCJA AGMレセプション(2000年11月13日開催)
会 計 報 告

収入の部	会 費	217,000
	(振り込み件数29件)	
	収入合計	217,000 円
支出の部	招待状・NL他送料	112,420
	公使婦人への花束	10,500
	NL宅急便着払い料金	740
	消費税	6,183
	振込手数料	420
	支出合計	130,263 円
繰越金	BCJA通帳に預金	86,737 円

BCJA Chairman
平 孝臣

BCJA ホームページの開設予定について

編集部 青柳昌宏

皆さまから多数寄せられましたご要望に答えまして BCJA ホームページを開設する予定です。現在、次回の AGM までに間に合わせるようにその準備を進めているところです。BCJA の活動状況報告、ニューズレターの閲覧、メンバー向けの案内、掲示板などを検討しております。順調に立ち上がった後は、UK NOW、British Council の Top ページからの Link を設定させていただく予定です。どうぞご意見、ご希望をお寄せ下さい。(メールアドレス m-aoyagi@aist.go.jp にお送り下さい。)

(Masahiro Aoyagi, 独立行政法人 産業技術総合研究所、
National Physical Laboratory 1994-95, m-aoyagi@aist.go.jp)

[編集後記]

BCJA 英国留学奨学金の審査がおわり、難関を突破された10名の方々に授与が決まりました。おめでとうございます。かつての私たちにとってそうであったように、英国留学が実り多いものであることを、心から祈念します。白鳥令委員長長の報告にありますように、今回の応募者はレベルが高く、審査は困難をきわめました。この高い志を是非実現させていただきたく、応募者全員に「BCJAの本」を贈呈することも、committee meeting で決定しました。これらの事業が、英国留学をめざす人々に刺激をあたえ、日英交流の一助になることを願ってやみません。

本ニューズレターの発送は、これまで BC の清水路子さんのご協力でおこなってまいりましたが、清水さんが退職され、今号より BC の國村三樹さんのご協力を仰ぐこととなりました。清水さんにはこれまでのご尽力に感謝し、國村さんには、これからどうぞよろしくお願いいたします。

これまで編集長を務めさせていただきましたが、本号をもって退任することとなりました。私を支えてくださいました皆様に、心より感謝申し上げます。編集長は次号より西田宏子先生(根津美術館 電話 03-3400-2536, E-mail: nishida@nezu-muse.or.jp) にバトンタッチします。編集実務は引き続き、青柳昌宏先生(産業技術総合研究所)がおこなってくださいます。新編集長のもと、本ニューズレターが一層発展しますことを願っております。

(瀬川彰久、北里大学医学部解剖、Imperial College 1989, segawa@kitasato-u.ac.jp)